

中国大会に参加して

【MJクラブ 4番 吉野 歩】

12月26日の朝、バスに乗り島根のカミアリーナに向けて出発しました。みんなは、バスでジブリの映画を静かに見ていました。会場に行く前に出雲大社へ行き、試合で勝てるよう必勝祈願をしました。

会場はとても大きな体育館でした。開会式はチーム紹介やダンスなどいろいろありました。ホテルではみんな元気でした。

二日目の朝、みんな集中していました。最初の試合は赤江というチームとの戦いでした。試合が始まったときはあまりシュートが入らなかったけど、オールコートマンツーマンをしてボールを奪い得点を重ねていきました。後半も攻めて30対47で勝ちました。2試合目は、琴浦というチームと戦いました。疲れがたまっていたのか思い通りのプレーができませんでした。結果は41対36で負けてしまいました。この大会の1日目は1勝1敗で翌日は交流戦となりました。みんなもがっかりしていました。だけど、気持ちを切り替えて明日の試合は頑張らなければと思いました。ホテルに帰ってからは、いつもの通りのみんなに戻っていました。

次の日の朝、気を引きしめて試合にのぞみました。序盤から得点を重ね、MJが得意とする速攻も決まり、最後まで手をゆるめずに22対48で勝ちました。この大会の最後の試合で勝てて良かったです。

帰りには、島根ワイナリーに寄り、お母さん方はお土産を買ったり、監督やお父さん方はワインの試飲をしたりして楽しんでいました。その後はアクアスという水族館でシロイルカやオットセイのショーを見ました。アクアスを出発して4時間くらいで下関に着きました。

3日間の中国大会で、ぼくたちはいろんなことを学びました。この経験を大切にして、バスケットを頑張っていこうと思いました。たくさんの方々に、応援やはげましのお言葉を頂いたことに感謝しています。本当にありがとうございました。

【MJクラブ 5番 尾川 清悟】

ぼくは中国大会で課題が見つかった。一つは、自分のプレイのこと。自分のふんばり所で、自分の力が発揮できなかったこと。だから、シュート力や落ち着くことをもっと身につけていけたらいいと思う。二つ目はベンチサポートのこと。スクイズの出し忘れや、応援も負けた理由の一つだと思う。だから、その二つを身に付けたり、指示していけたらいいと思います。

「第35回中国ミニバスケットボール交歓大会（平成27年12月25～27日）」に出場して

MJクラブ 監督 高山 直樹

中国大会初日、今年の島根は暖かった。いつもの肌を突き刺す痛いような寒さはない。山陰地方特有の「雨」のち「曇り」のち「晴れ」の気まぐれな天気は健在であったがこの時期に珍しく雪は降らなかった。

試合会場は前回の島根大会と同じ出雲市のカミアリーナだ。

MJクラブの予選リーグの対戦相手は、島根県3位の「赤江」と鳥取県1位の「琴浦」である。両チームとも初めて対戦する相手である。

身長170cmの選手がどちらのチームにもいる。特に赤江は本大会で最も平均身長が高いチームである。両試合ともお互い選手の特徴を見極めながら前半が過ぎていく。チームの特徴が概ね分かったところで後半戦での戦いである。

大会に向けて長身チームへの対策として練習テーマは、「スピードある展開」を掲げていた。この対策が概ねうまくいっていたが、ほころびが生じたのは琴浦戦での後半であった。速攻へと展開するときのミスが重なり、それ以降縦への展開ができなくなるなど、積極性が影をひそめて得点が止まった。最近よくある負けパターンで4qには逆転を許した。それでも試合終了10秒でゴール下でのシュート時のファール、バスカンなら2点差で逆転も。。という場面もあったがシュートが入らずそのまま敗戦。前半は勝っていただけに惜しい敗戦であった。この戦いでチームは1勝1敗となり予選リーグ敗退となった。

悔しい試合の後は、気分を切り替えて楽しい懇親会へ（写真1）。試合と懇親会がセットになっている中国大会である。役員、派遣審判、出場チームが勢ぞろいで、山口県選手団1日目の夜は2日目以降の結束を誓ったのでありました。

最後に、島根の地で試合をさせてもらうために、県関係者、地域の方等、大勢の方々の献身的なサポートをして頂いたことに対し、チームを代表して心から感謝を表すものであります。



写真1 チーム山口（役員、審判、チーム関係者）